

口永良部島の火山活動について(第3報)

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	5月29日	10:08	非常体制「当該災害に関する対策本部設置」				
九州地方整備局	5月29日	10:08	非常体制	九州運輸局	5月29日	10:08	非常体制
国土地理院	5月29日	10:08	非常体制	気象庁本庁	5月29日	10:07	非常体制
国土技術政策総合研究所	5月29日	10:08	非常体制				

2. 噴火の概要

- 新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。
- この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がりました。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達しました。
- 5月29日21時00分以降の最高噴煙高度は火口上700m。
- 5月30日03時00分現在、噴煙は火口上200m。噴火は継続しており、噴煙は北側に流れている。

3. 気象の見通し

- 今日30日夜に九州南部を低気圧が通過し、種子島・屋久島地方を中心に大雨となるおそれ。予想雨量は1時間40ミリ、明日31日06時までの24時間100ミリの見込み。
- 今日30日夕方から明日31日明け方まで、落雷や突風、急な強い雨に注意。

4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

- 番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)
- 湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に收容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。
- 番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸
- そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。
- 29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)
- 屋久島の3カ所の避難所は次の通り。
 - ・宮之浦老人憩いの家
 - ・宮之浦公民館
 - ・屋久島町福祉センター

5. 国土交通省の対応

- ・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)
- ・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催
- ・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催予定
- ・5/30 12:00 うえの政務官が現地入り予定

○リエゾン(情報連絡員)派遣

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2				5
屋久島町	2	0				2
合計	5	2	0	0	0	7

- ・気象庁より1県1町へ、のべ8人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2				4
屋久島町	2	2				4
合計	4	4	0	0	0	8

- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ12人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	3				6
屋久島町	3	3				6
合計	6	6	0	0	0	12

- ・九州運輸局より1県へ、のべ4人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2				4
合計	2	2	0	0	0	4

○OTEC-FORCEの派遣

- ・九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ16人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6		合計
		29	30	31	1	2	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3				7
	映像配信	2	2				4
	資機材運搬	2	2				4
	情報収集		1				1
合計		8	8	0	0	0	16

○防災ヘリコプターによる状況調査

- ・九州地方整備局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査をTEC-FORCE及び福岡管区気象台で実施(5/29)。火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- ・九州地方整備局防災ヘリコプター(鹿児島空港8:23離陸)及び四国・中国地方整備局防災ヘリコプター(鹿児島空港12:00離陸予定)による口永良部島上空からの調査をTEC-FORCEで実施予定(5/30)。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島長田地区	火山監視	Ku-SAT	1	出動中	5/29~
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	移動中	5/30~

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港

5/29 13:30 八代港出港

5/30 00:45 鹿児島港入港

乗船可能人員 12名(乗務員除く)

6. 気象庁の対応

○5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き上げ

○5月29日10:40、16:00 火山の状況に関する解説情報を発表

○5月29日11:10 九州地方整備局の協力により、気象庁機動観測班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施

○5月29日11:30 記者会見

○5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議

○5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)

○5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設

7. 海上保安庁の対応

5月29日

■巡視船・測量船

○「拓洋」が本村港沖に到着(1150)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施

○「さつま」が湯向港沖に到着(1232)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送

○「明洋」が湯向港沖に到着(1500)。即応待機

○「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(1542)

○「こしき」が本村港沖到着(1600)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送

○「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(1740)

■航空機等

○ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(1158)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継

○「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

5月30日

○「おおすみ」及び「あかいし」を口永良部島周辺海域に配備中

8. 国土地理院の対応

・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)

・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)

・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)

9. 所管施設等の状況

○道路関係

■本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報

■本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○鉄道関係

対象施設なし

○下水道関係

・口永良部島においては、下水道施設がないことを確認済み。

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、官庁施設関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

・現時点で被害情報なし

問合先: 水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本 代表: 03-5253-8111 内線35-822 直通: 03-5253-8461
--